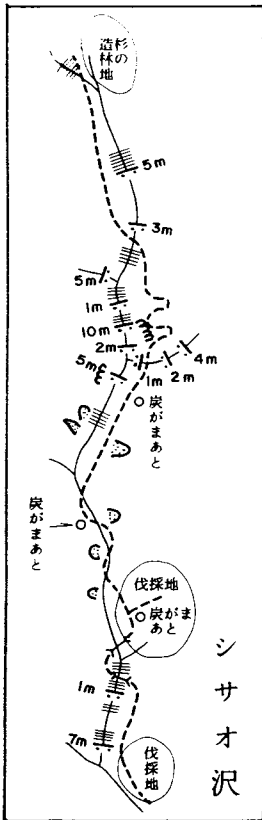


岩が沢を埋めつくしていた。なんのことはない、林道工事の残土を沢に捨てたものである。

余談であるが、山の中とはいえ、同じ林業技術者として残念である。少し離れた所には、残土捨て場としても適地があったと思えるのだが。

さらに先に進むこと三〇分、二段七び、六びと、この沢最大の滝が出現した。左岸を木の枝を使って登る。さらにその上に二びの滝が続いた。

この先、沢の傾斜勾配も急になり、水の流れも細くなってきた。



増沢バス停から鱗沢そのの林道を歩いてゆく。この林道は現在盛んに

左岸より、水量では本流より多いと思われる支沢が数段もの滝を連ねて落ちている。どちらが本流なのか、地図で現在位置を確認し、こちらが本流と確認して先に進む。途中三びの滝が出てきたが、水も溜れ源頭部

## シサオ沢

一九八三年六月一日

延長工事が行われている。

一三時一五分、砂子沢出合を通過。沢はまだ平凡なままなので、左岸につけられた踏跡を利用してスピードアップを図る。一三時二〇分、左下の流れに滝がかかっているのがみえてきた。これを見逃す手はあるまいと、下に降りてわらじをつける。

七び程の斜瀑である。ホールドも

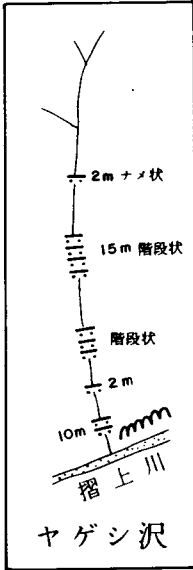
となったあたりで遊行終了として引き返す。  
(記：)

「タイム」 林道ゲート(二三:三〇)  
↓砂子沢出合(一四:〇〇)↓遊  
行終了(一四:五〇)

結構多く、右岸を直登する。上部はシャワークライムとなった。

上に出て少し進むと、沢は平凡になる。三〇分程歩いても変化がないので、また上上がって踏跡でも利用しようかと考えていたら、滝が出てきた。五趾程で右岸を直登。その上にも、もうひとつ一〇趾の滝。これはホールドも少ない。右岸から取り付き、小さなスタンスと、あまり当てにならない枯木、ブッシュを利用しながら登りきる。この上はまた平凡となった。

一四時一〇分、バラバラと木々の葉を打つ雨音が聞こえてきた。すこ



い夕立である。雷も鳴っている。みる間にズブぬれとなった。「ええいままよ」と更につめ上げ、一四時三〇分、二俣に分かれ、小さなルンゼ状となったのを確かめて引き返すこ

## ヤゲシ沢

L

一九八三年九月三日

天気晴。鱒沢合流点そばに車を置いて、褶上川本流右岸の岩場をへってヤゲシ沢出合まで下降する。一四時二五分、出合着。

出合すぐに、F1一〇趾が立ちはだかっている。水量はそれほど多くもなく直登するが、苔はついていりし、岩の突き出ている所はあるしで、足

とにする。(記)

「タイム」 増沢バス停(一二・四〇)

↓入谷(一三・二五) ↓遊行終了

(一四・三〇) ↓増沢バス停(一六

・〇〇)

場は悪く、ザイルで確保してもらおう。次にF2、F3と傾斜をもった階段状の滝が続く。対岸の道路からはこのあたりの滝がきれいに見えるとこの事である。

三〇分も歩くと、急に沢は狭くなって、ヤブがかぶさってきた。今日の遊行はこれで終わりとして、一五分程ヤブをこいで、左岸の造林地の踏跡に出て下山する。